

ハワイ州カウアイ郡との50年の交流

山口県周防大島町総務部政策企画課

姉妹島提携に至るまで

周防大島町は、山口県東南部に位置し、瀬戸内海に浮かぶ島では3番目の面積を有し、年間平均気温15.5℃と比較的温暖な気候、青く澄みわたる瀬戸内の海と四季の彩り豊かな美しい自然を有する町です。

周防大島町とハワイとの国際交流は、第1回官約移民船がハワイに到着した1885年（明治18年）、遠い異国の地に夢と希望を抱き移住した先人たちのパイオニア精神により始まり、その後も交流の絆は途絶えることなく、現在に至っています。

本町は、1885年～1894年までの10年間に3,900人あまりのハワイ移民を送り出してきました。こうした歴史を背景に、ホノルル市長、ホノルル在住大島郡出身者の仲介により、1963年6月22日、ハワイ州カウアイ郡と姉妹島提携を締結しました。これを機に、両島首長、島民の相互訪問を開始し、青少年海外派遣や高校生の修学旅行の実施など、文化、産業、スポーツ交流など多岐にわたる交流活動を展開しています。

島民レベルの交流を具体化へ

島民交流を具体化するため、1986年10月に「第1回カウアイ日本文化祭」が開催され、町長や議長をはじめ、多くの島民が参加しました。同文化祭には周防大島町から隔年で参加するようになり、また、カウアイ郡からも同様に、カウアイ・フレンドシップツアーで、郡長や郡民、青年大使などが来島するようになりました。

町内の民間団体などの参加により、舞踊、茶道、華道、書道、フラダンスなど広い範囲で文化交流

を続けています。長年にわたる相互交流は、両島民の文化に対する理解と友好関係の継続に大きく役立っており、こうした民間団体とも連携した交流の展開が、50周年にも象徴される継続性のある交流活動につながっています。

姉妹島提携が縁でフラダンスが盛んに

本町では姉妹島提携が縁で、子どもから大人まで幅広い世代でフラダンスを楽しむ人が増えています。2008年度から毎年、周防大島観光協会主催、周防大島町後援、ホテルなど民間企業の会場提供により、夏休み期間中の土曜日に「サタフラ」ことサタデーフラダンスが4会場で開催されており、周防大島の夏の風物詩となっています。参加チームは周防大島に限らず、全国各地に及んでおり、ホテルなどでのハワイに関する食の展開と合わせて、「瀬戸内のハワイ」という周防大島の観光イメージが定着し、地域経済の活性化と町の知名度アップにつながっています。

公立保育所では、保育教育の一環として子どもたちにフラダンスを教えています。最近では、私立の保育所でも同様にフラダンスを取り入れるところが増えてきており、子どもたちのフラダンス



カウアイ島からプレゼントされた曲を子どもたちが披露

に対する興味は
やがて、ハワイ
文化への関心へ
とつながり、姉
妹島交流を展開
する上で重要な
共通の話題とな



カウアイ島から来町された一行が小学校を訪問し、生徒にフラダンスをレッスン

ります。こうしたフラダンスの取り組みは、次代を担う子どもたちが国際交流の意義を考える契機となっており、新たな交流の担い手を育成する上で大きな役割を果たしています。

アロハの心がつなぐ交流50年

本町では、姉妹島提携を締結した日（1963年6月22日）を記念して、6月22日～8月31日の期間、アロハシャツを着用して皆様を「おもてなしの心」で歓迎するアロハキャンペーンを実施しています。

このアロハキャンペーンは、町民の国際交流に対する意識を高め、地域の国際化を推進する一環として1986年から始められ、役場、郵便局、銀行、商工会、漁協、各福祉施設、ホテルなど公・民を問わず多くの施設で実施されています。期間中開催される議会や町関係の会議には、関係者がアロハシャツで出席するなど、行政・事業所・住民が一体となって、カウアイ島との交流を意識した取り組みを行っています。

カウアイの人々が大切にしている「アロハスピリッツ」（楽しさ・幸せ・喜びを分かち合う）と、周防大島町の人々が大切にしている「おもてなしの心」の融合から始まった交流の軌跡は、姉妹島提携により両島の発展を願った先人たちによって築かれてきた歴史でもあります。



交流を未来へとつなげていくために、交わした交流宣言書

2012年7月、カウアイ郡の代表のほか、カウアイ日本文化協会、カウアイ山口県人会を招いて、姉妹島提携50周年記念前年

祭を開催し、姉妹島の絆がより強固なものとなることを願って交流宣言書を交わしました。

そして、2013年10月11日、カウアイ島で開催された姉妹島提携50周年記念式典には、周防大島町から町長、議長をはじめ、約50人が参加し、50周年を盛大に祝いました。

ハワイ移民の歴史を共有

カウアイ島には、ハワイ諸島の自然・歴史・文化・芸術に関する資料のほか日系移民の人々の住居再現や生活道具などを展示・説明するカウアイ博物館があります。この博物館と周防大島の日本ハワイ移民資料館は、日系移民の歴史とその文化を紹介し、関係する資料・記録を保存する共通の使命を持っていることから2000年に提携を結び、同時に、アメリカ合衆国内や日本国内にある日系移民関係資料を展示する5つの博物館・資料館とも提携を結んで日系移民資料に関する情報提供のネットワークを構築しています。共通の目的を持って資料展示をする資料館・博物館が国境を越えて協力関係を確立し、交流を促進することで、互いの活動がより充実したものとなり、博物館としての意義も高められ、さらに、両島が共有する移民の歴史を記録としてとどめ、未来にわたって交流の原点となる資料の保存に努めています。

むすびに

今後は、姉妹島提携50年という半世紀にわたる交流を継続するとともに次世代へ継承し、長年にわたって構築した信頼関係を土台とし、さらにお互いの信頼関係を築き、新たな交流の歴史を積み重ねていきたいと思ひます。

国際交流では、それぞれの言語や生活習慣などが異なり、意思の疎通が困難な場合もありますが、まずはお互いを尊重し相手の立場で物事を考えることが、持続性のある国際交流につながるものであると理解しています。今後もグローバルな視点に立って、国際交流の推進に取り組んでいきたいと考えています。